

「龍泉洞の水」

地域に恩返し

岩泉町の第三セクター岩泉産業開発(資本金四億二千六百万円、会長・伊達勝身町長)は、主力商品「龍泉洞の水」の売り上げの一部を基金に積み立て、環境教育や食育に還元する方針を固めた。ペットボトル一本当たり十銭を拠出、来年度から年間約六十万円を町内の小、中学校の活動に充てる。町内ではカワシンジュユガイの保護や雑穀栽培などを授業に取り入れる学校が多く、ユニークな社会貢献策として注目を集めよう。

同社は300ミリから2リットルまで四種類のペットボトル入りミネラルウォーター「龍泉洞の水」を製造、販売している。生産本数は年間五百万〜六百万本で、基金への拠出額は月額約五万円と見込んでいる。名称は「森と水のシンフ

岩泉の3セク 売り上げ一部基金に

オニ環境基金。既に同社関係者を役員とする組織を構築し、今年四月にさかのぼって積み立てを始めた。開発公社は一九八二年設立。現在は龍泉洞からわく

教育活動に還元 希少貝保護や雑穀栽培

町内ではカワシンジュユガイの保護活動(天平小・中)、ソバ栽培(小川小)、豆腐・炭作り(有妻小・中)、郷土芸能の七頭舞(小本小)など特色ある学校教育が進んでおり、各校から来

岩泉産業開発の三田地正社長は「われわれは自然の恵みをいただき商売を受け、町教委も基金活用の準備を始めた。町内ではカワシンジュユガイの保護活動(天平小・中)、ソバ栽培(小川小)、豆腐・炭作り(有妻小・中)、郷土芸能の七頭舞(小本小)など特色ある学校教育が進んでおり、各校から来



売り上げの一部を基金に積み立て、子どもたちへの環境教育や食育に役立てることになった「龍泉洞の水」